

Hotwax presents

筒美京平全曲研究・全曲解説

高護

セクシー・バス・ストップ

「セクシー・バス・ストップ」は筒美京平にとって最重要作品のひとつである。

ディスコ歌謡の先駆けであり、最大のヒットであることはもとより「筒美京

平自身の作品」であることが大きなポイントである。

他者に楽曲を提供する「職業作家」の筒美京平が自身の名義による作品を発表することは希で、作品数は限られる。自身の名義とは、演奏家、編曲家、作曲家といったいくつかの側面があるが、60年代の企画盤は演奏家 or 編曲家としてチェンバロやピアノ



の演奏をしたものが大半で、自身が指揮者(リーダー)&作曲家として発表したアルバムは基本的に下記の5作品ということになる。

①筒美京平とそのグランド・ストリングス『筒美京平ヒットオリジナルサウンド』／SJV-444／ビクター／1970年3月

②筒美京平オーケストラ『筒美京平の響』SOLJ2／CBSソニー／1972年5月

③筒美京平とサウンドオーケストラ『ODE TO THEYOUTH ～青春のハーモニー～未来から来た手紙～』／SOLJ-20／CBSソニー／1972年6月

④ドクター・ドラゴン & オリエンタル・エクスプレス『THE BIRTH OF A DRAGON』／VIP-6329／ビクター／1976年6月

⑤KYOHEI TSUTSUMI & HIS 585BAND『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』／LF-91016／東芝／1976年7月

前3アルバムはいわゆるイージー・リスニングの範疇に入る作品で、ポール・モーリア楽団、レイモン・ルフェーヴル・オーケストラ、カラベリときらめくストリングスといったヨーロッパ発のポップス・オーケストラの台頭と同時期で、イージー・リスニングがラブ・サウンズという名称で呼ばれていた時期でもある。

『筒美京平ヒットオリジナルサウンド』は「つかのまのしあわせ」等の書き下ろし6曲を含む全12曲入りですべてインストゥルメンタル作品。

『筒美京平の響』は書き下ろしはないが全曲が筒美京平作品。「また逢う日まで」「さすらいの天使」といった重要作品が12曲。「さすらいの天使」はシングル・カットされており、名義はシンガーズ・スリー・筒美京平オーケストラのダブル・ネームでカップリングは「雨のエアポート」。

『ODE TO THEYOUTH ～青春のハーモニー』は「ガラスの小箱～そのままにしておいて下さい」等の書き下ろし曲6曲を含む全12曲入りで、よしだたくろう「結婚しようよ」とニューシーカーズ「愛するハーモニー」の2曲を除く10曲が自身の楽曲。

「ひとりごと～あなたと踊る勇気があれば～」等の4曲はヴォーカル入りで作詞：及川恒平英詞：シャーロット水野とクレジットされている。ジャケットのインナーにはレコーディングに臨むシンガーズ・スリーの写真が収録されていて当時のレコーディング現場の雰囲気を伺い知ることができる。アルバムの帯には「カーペンターズ・レターメンに迫る!! ラブ・サウンズの決定版登場」とある。



いずれも70年代初期の筒美京平サウンドの凝縮された聴き応え充分の作品であり、特に『ODE TO THEYOUTH ～青春のハーモニー』はよく練られた自信作といえるだろう。

その4年後の1976年にビクターからリリースされたのがドクター・ドラゴン & オリエンタル・エクスプレス『THE BIRTH OF A DRAGON』である。

全10曲入りでB-4「BABY I LOVE YOU」を除く9曲がすべて書き下ろしのオリジナル曲。「BABY I LOVE YOU」のオリジナルはロネッツ1963年。KYOHEI TSUTSUMI & HIS 585BAND 名義の『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』はドクター・ドラゴン & オリエンタル・エクスプレス / 『THE BIRTH OF A DRAGON』と姉妹作ともいうべき重要な作品で全10曲中8曲が筒美京平の書き下ろし作品で、「セクシー・バス・ストップ」「カリブの夢」「ハンバー」「リトル・モンスター」の4曲が『THE BIRTH OF A DRAGON』と競作で2枚のアルバムに異なるヴァージョンが収録されている。『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』の担当ディレクターは筒美京平作品のキーマンの中でも最重要人物の一人である草野浩二。この2作品についての詳細は後述する。

後にハッスル本多の異名を持つことになるビクターの洋楽部所属の本多慧は当初は宣伝担当で、当時のビクター洋楽はモータウンを筆頭に、スタイリスティックスの「ユー・アー・エヴリシング」(72年)「誓い」(73年)といったヒットを連発していた。

75年にはスタイリスティックスと同じ Avco Records(後に H&L RECORDS)からヴァン・マッコイの「ハッスル」がリリースされ世界的な大ヒットとなる。本国アメリカでの発売は75年4月18日で、ビルボード誌の Hot 100 と Hot Soul 部門で1位を獲得。日本でも総合チャートの24位を記録する大ヒットとなった。Avco/H&L はジミー・ロジャース「ハニー・カム」やザ・トーケンズ「ライオンは寝ている」等のヒットで知られるヒューゴ & ルイジ(Hugo Peretti&Luigi Creatore)というベテラン・プロデューサーの起こしたレーベルである。

当時のスタイリスティックスの日本での実績と知名度は抜群で「ハッスル」のアーティスト名は正式には VAN MCCOY & SOUL SYNPHONY だが、日本での発売時の名称はヴァン・マッコイとスタイリスティック・オーケストラという表記だった。

ビクターの洋楽を率いていたのは洋楽界の大プロデューサー金子修。コロムビア在籍時にはエグゼクティブ・プロデューサーとして多くの実績を残し、泉明良によるエミー・ジャクソン「涙の太陽」(65年)、ジャッキー吉川とブルー・コメッツ「ブルー・シャトウ」(67年)といった和製ポップスのヒットを放ったCBSコロムビア洋楽部での邦楽制作も金子修の発案だったといわれる。金子修は、後にはコロムビアのヒット・ディレクター東元晃を招いて INVITATION レーベルを成功させることになる。

本多慧のアプローチによって制作されたのが「セクシー・バス・ストップ」

である。ドクター・ドラゴン & オリエンタル・エクスプレスという架空のバンド名による作品で、作曲のクレジットはジャック・ダイヤモンドという筒美京平の変名が使用されている。

1975 年は「ハッスル」の爆発的な大ヒットが牽引して世界的なディスコ・ブームが到来。ディスコ・ミュージックは単なる音楽ジャンルではなく、ダンス、文化、ファッション、風俗、娯楽、飲食、消費欲求、これらすべてを串刺しにした 70 年代最大のミュージック・カルチャーである。

翌 76 年 1 月にはヴァン・マッコイ、ノーマン・ハリス、ヴィンセント・モンタナらのプロデューサー、アーティストをはじめ世界各国の音楽業界関係者や DJ が 500 人超参加したニューヨークのルーズベルト・ホテルで「国際ディスコ会議 DSICOFORUM」というビジネス・コンベンションがビルボード誌主催で開催された。本多慧はすでに完成していた「SEXY BUS STOP」を世界中の音楽関係者に売り込む目的で会議に参加していた。

このコンベンションの影響もあって 76 年はヨーロッパ発のディスコ・ヒットが賑わいをみせる。イギリスからはビドゥー & ジミー・ジェイムスの興したシュビドゥー・ミュージックのビドゥー・オーケストラ「渚のディスコ・パーティー」、ジミー・ジェイムス & ザ・ヴァガボンズ「ディスコ・フィーヴァー」、フランスのバンザイ「チャイニーズ・カンフー」、ドイツのドナ・サマー「恋はマジック」、シルバー・コンベンション「フライ・ロビン・フライ」、ボニー M「ダディー・クール」といった米国のブラック・ミュージックとはテイストの異なるディスコ・ヒットが続々と登場する。

ディスコティックはフランス語の DISCOTEQUE が語源とされるが、客が DJ のかけるレコードに合わせてダンスをする飲食を伴う業態である。ダンス・ホールから始まる生バンドによるダンスを提供する店はジューク・ボックスが部分的に代替を果たしつつ、60 年代後半には大音量の音響システムを伴う店が生まれ、レコードの演奏でも踊りの満足度が得られることが知られつつあった。日本でも 1968 年にオープンした赤坂のゴーゴークラブ MUGEN を皮切りに六本木のピブロス、新宿のジ・アザー、サンダーバード、アップルといった店が誕生。60 年代後半から 70 年代中期までは生バンドと DJ プレイが両立し共存していた店も多く存在した。

そのシーンから誕生したのが、新宿 2 丁目の「ジ・アザー」という店の従業員でもあるクック・ニック & チャッキー＝ソウル・ブラザーズの歌唱による「可愛い人よ」である。単発ではあるが、これが最初のディスコ歌謡のヒット作品といえるだろう。作詞・阿久悠／作曲・大野克夫コンビの初ヒット作品としても記憶される。

アメリカでは 1971 年から放映開始された視聴者参加型のテレビ音楽番組『ソウル・トレイン』が、60 年代の『アメリカン・バンドスタンド』に匹敵する人気番組に成長。『ソウル・トレイン』は米国のソウル・ミュージック・シーンに多大な影響を与え、72～74 年にかけてよりダンス・オリエンテッドな音楽が続々と生み出される。

新興レコード会社であるフィラデルフィア・インターナショナルはフィリー・ソウルの名のもとにオージェイズ「裏切り者のテーマ」、スリー・ディグリーズ「天使のささやき」、ハロルド・メルヴィン & ブルーノーツ「二人の絆」といったヒットを連発。74 年には番組から生まれた MFSB フィーチャリングスリー・ディグリーズによる「ソウル・トレインのテーマ TSOP (The Sound of Philadelphia)」もヒットした。MFSB はフィラデルフィア・インターナショナルのアレンジャー・プロデューサーのボビー・マーチン等の率いるレコーディング



時に演奏を担当する専属バンド＝Mother Farther Sister Brother(別の説もある)の名称である。

他社からもバリー・ホワイトとラヴ・アンリミテッド「愛のテーマ」、B.T. Express「DO IT」、クール & ザ・ギャング「Jungle Boogie」といったヒットが続いた。筒美京平がフィリー・ソウルをはじめとするこれらの新たなソウル・ミュージックの音楽的要素を作品に取り入れたのが、74 年～75 年にかけての平山三紀「熟れた果実」、岩崎宏美「センチメンタル」といった作品である。本家フィリー・ソウルのスリー・ディグリーズに提供した「にがい涙」(75 年 2 月)もこの流れにあるが、これらの作品群については別稿で取り上げる。

75 年は「ハッスル」をはじめ、アース・ウィンド・アンド・ファイアー「シャイニング・スター」やカール・ダグラス「吼えろドラゴン」等が世界的に大ヒットしてディスコ・ミュージックは隆盛期を迎える。

1975 年のディスコ・ブームの中でザ・ビーjeesも劇的な変化を遂げる。アトランティック・レコードの敏腕プロデューサー、アルフ・マーディンのもとでアルバム『メイン・コース』を制作。「ジャイヴ・トーキン」、「ブロードウェ



イの夜」といった傑作を立て続けにヒット・チャートに送り込みディスコ・シーンの中心へと躍り出たのである。余勢を駆って76年6月には「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」をリリース。これが翌77年の「サタデー・ナイト・フィーバー」への布石となる。

『ソウル・トレイン』とディスコ・ブームにおける重要な役割を果たしたのがディスコ・ダンス≡ソウル・ステップである。

60年代初頭のツイストから始まるダンスとヒット・ソングの関係はR&B/R&Rシーンの重要な要素として定着。スモーキー・ロビンソン & ザ・ミラクルズの「ミッキーズ・モンキー」のモンキー・ダンスやダイアナ・ロスとシューブリームスの「Stop! In The Name of Love」やフォー・トップスの「Reach Out (I'll Be There)」はテレビでのパフォーマンスの記憶を頼りに身振り手振りをまねて全米のティーン・エイジャーがダンス・ステップに興じていた大ヒット曲である。

「ミッキーズ・モンキー」は日本でも67～68年に田辺昭知とザ・スパイダースが好んで取り上げた楽曲だが、実際にスモーキー・ロビンソン & ミラクルズと同じダンス・パフォーマンスをみせていた。

日本においてディスコ・ダンス≡ソウル・ミュージックのシーンから生まれたヒットが74年11月にリリースされたザ・コモドアーズの「ザ・パンプ」である。ザ・コモドアーズはライオネル・リッチーを擁するモータウンのニュー・カマーとして米国では74年8月にリリースした「マシンガン」がデビュー・ヒット。日本でも10月には同曲でシングル・デビューして「ザ・パンプ」はそのB面だった。その翌月に急遽A面に変更してセカンド・シングルとしてリリースされたのが「ザ・パンプ」である。

シャッフル・ビートのギター・カッティングとクラヴィネットによるリフのコンビネーションで楽しくダンスするまさにディスコ・ミュージックの王道スタイルでスマッシュ・ヒットとなる。75年3月にはフィンガー5が「パンプ天国」をリリース。ディスコ・ブームは一気に浸透する。

ハッスル～パンプの流れによりディスコ・ダンスが浸透する音楽シーンで新しいダンス・ステップとして登場したのが「バス・ストップ」である。いくつ



かのダンス・バリエーションがあり、75年にはファット・バック・バンド「ドゥ・ザ・バスストップ」、サルソウル・オーケストラ「シカゴ・バス・ストップ」、アーニー・ブッシュ「マンハッタン・バス・ストップ」といった作品がヒットした。

「セクシー・バス・ストップ」のシングル・リリースは76年3月5日。思惑通りディスコ・ブームの波に乗りチャートの25位にまで昇るヒットを記録。

楽器の編成はドラムス、エレキ・ベース、エレキ・ギター×2にコンガというリズム・セクションに途中からクラヴィネットとストリングスが加わる。エレキ・ベースがシンセ・ベースのような音色に聞こえる箇所もあり、EQ等で音を加工してディスコ・ファンク感を生み出している。メロディー・パートはフルートが担当。スカット・コーラスはシンガーズ・スリーと思われる。

最も強烈なのはブリッジ（間奏部分）に登場する京琴と尺八のコンビネーションで後半ではストリングス、クラヴィネットと絡みながら圧倒的な存在感を示している。2番B部分で一瞬顔を出すのはハモンドかまたはコンボ・オルガンか。筒美京平のアレンジャー & サウンド・プロデューサーとしての魅力が凝縮された聴きどころ満載の大傑作の誕生である。

この「セクシー・バス・ストップ」に目をつけたのが日音の村上司である。デビュー作「黄色いレモン」から全面的に筒美京平をバック・アップした村上は筒美京平初のNO.1ヒットでレコード大賞作曲賞を獲得したいしだあゆみ「ブルー・ライト・ヨコハマ」のプロモーションの要となった人物であり、筒美京平にとって重要なビジネス・キーマンである。

村上は筒美京平に浅野ゆう子の歌唱で「セクシー・バス・ストップ」のヴォーカル・ヴァージョンの制作を提案する。ディスコ向けのインストゥルメンタル作品に歌を乗せるという発想は突飛ではあるが、同時にヒット・プロデューサーの嗅覚の鋭さを感じさせる。いくら村上の頼みとはいえ、かなり無理があるオーダーであり筒美京平が固辞したことは広く知られている。

渋る阿久悠を口説いてズー・ニー・ヴーの「ひとりの悲しみ」を改詞改題した尾崎紀世彦の「また逢う日まで」をレコード大賞となる大ヒットに仕立て上げた実績からもわかるように、その程度で引き下がる村上ではない。筒美京平はひとつだけ条件を提示したという。「作詞は橋本淳さんで」。

「セクシー・バス・ストップ」の主旋律はインスト曲ということもあり、歌メロとはレンジが隔たっている部分もあってキーや構成にも変更が必要になる。歌用にメロディーやコードの一部が修正されかつ新しい旋律が追加されている。

BPM はオリジナルのオリエンタル・エクスプレスが 120 と速めのテンポでキーは F。浅野ゆう子のヴァージョンはキーは B ♭ でオリジナルと比べるとかなり低い。BPM は 117 でオリジナルのようなキラキラ感がやや少ないのはテンポやキーに起因していると思われる。構成はかなり変更されている。タイムを見てもオリジナルのオリエンタル・エクスプレスは 4:04 で浅野ゆう子のヴァージョンは 3:22 と差がある。

オリエンタル・エクスプレスの構成要素のポイントは A メロ 5 小節のあとに登場する 1 小節の vamp= 繋ぎによるフレーズで、特に 1A 終わりのフルートのパートがこの曲のフックとなっている。A パートが 5+1 ×2 の 12 小節という構成で、かつ 1 番でそれを 1.5 回繰り返す =18 小節というディスコ・ナンバーならではのダンス・オリエンテッドな構成である。

サビ =B パートは浅野ゆう子のヴァージョンではコーラスの「♪ Bus stop I Remember」で始まる部分がオリエンタル・エクスプレスでは 1 番は「♪ Gotta find your way and your car ♪ Shake your boogie」というゴキゲンな歌詞で歌われていて、2 番以降にコーラスは登場しない。

浅野ゆう子のヴァージョンは 1 番 A を短縮して 12 小節でサビ =B パートへストレートに進む。サビの「♪ Bus stop I Remember」に続く「♪ 二人で踊った〜♪ あの日を忘れない」の箇所はオリジナルにはないメロディーで歌用に追加で作曲されている。「♪ かれ〜にい〜」の箇所も同様である。

楽器の編成はオリジナルに近いが、コンガは無く代わりにハンズ・クラップ = 手拍子がディスコ感を創出。ベース・ラインは大幅に変更されていて、おそらくオリジナルのベース・フレーズでは歌メロにそぐわないという判断だろう。全体を牽引するのはギター・カッティングでオーバー・ダビングを含めて 3 track 使われている。間奏部分の京琴と尺八のコンビネーションはオリジナルを踏襲。エンディングにオリジナルにはないプラス・セクションが登場して歌を盛り上げる。浅野ゆう子のヴァージョンの編曲は高田弘。

橋本淳はプロフェッショナルな歌詞を提供している。すでにできあがっているディスコ・インストに歌詞を乗せるという曲芸をなんなくこなしているように思えるが、実際の難易度は高い。特にサビの「♪ Bus stop I Remember 〜 ♪ か・れ〜にい〜」に続く「♪ もた・れて・抱かれたわ」の箇所は楽曲構造上は、キメ(リズム・ブレイク)の部分で器楽的なフレーズであるが、そこをフックとして歌で聴かせてしまう着想には驚かされる。



「ジューク・ボックス」「キャンドル・ライト」といった現実のディスコとは無縁のシチュエーションが登場しつつも、異和感なく聴けるのが橋本淳の橋本淳たる由縁である。この技法や橋本淳の歌詞世界については別の機会に詳しく述べる。「♪ 喧嘩の後でかわした口づけ あれは何だったの」というフレーズは、日音・村上司、筒美京平、橋本淳というトライアングルの歴史の中でかなり意味深い鮮烈なものである。

浅野ゆう子の「セクシー・バス・ストップ」はオリエンタル・エクスプレス

から 1 ヶ月半後の 76 年 4 月 25 日にリリース。期待に違わずダンサーを従えたテレビでのパフォーマンスも歓迎され、全国のお茶の間にまでディスコ歌謡が浸透する大ヒットとなった。チャートでもオリジナルを上回る 12 位を獲得して、浅野ゆう子にとって最大のヒット曲となった。

「セクシー・バス・ストップ」はオリエンタル・エクスプレス、KYOHEI



TSUTSUMI & HIS 585 BAND、浅野ゆう子の 3 者競作だが、カヴァー・ヴァージョンもいくつか存在する。

ローレン中野は「オリーブの首飾り」のディスコ風のアレンジをフィーチャーした和田弘とマヒナスターズとのコラボレーション・アルバム『ゆうわく』の中の 1 曲としてカヴァー (76 年 6 月発売)。アレンジはアルバム全曲をあかのたちおが担当。最大の特徴はキーを Am(短調)にしているところでマヒナの持ち味であるペダル・スチールを導入していることと関連していると思われる。BPM は 122 でエレキ・ベースのブースト感も程よく、ハワイ出身日系三世のローレン中野はアクセントが独特で、テレサ・テンを彷彿とさせるチャームな歌唱によるジャパニーズ・ハワイアン MEETS ディスコ感が楽しめる。

欧陽菲菲も翌 77 年に「愛的路上我和你」というタイトルで台湾語の歌詞をつけてカヴァー。アレンジは浅野ゆう子のヴァージョンとほぼ同じで、京琴と尺八も登場するので同じトラックを使用している可能性もある。欧陽菲菲は

2002 年にもアルバム『ALL MY FEIFEI』の中でダンサブルなラテン・ヒップホップ風トラックをバックに同じ台湾語の歌詞でカヴァー。

EPO も 87 年にアルバム『POP TRACKS』の 1 曲としてカヴァーしている。また筒美京平作曲家生活 40 周年記念の一環として 2007 年 12 月にリリースされた小西康陽の選曲・監修によるトリビュート・アルバム『京平ディスコナイト』にはグルーヴあんちゃんによる浅野ゆう子ヴァージョンのリミックスが収録されている。

インストのカヴァーとしては L.A.SOULDrivers と SOULEXPRESS で L.A.SOULDrivers はシングル盤の両面インストゥルメンタルで「ムーン・ライト・タクシー」のカップリング・サイド。浅野ゆう子ヴァージョンのインスト版で B



メロのコーラスも「♪ Bus stop I Remember 〜」と歌われている。SOUL EXPRESS は『ディスコヒット大全集』という洋楽既発曲中心のビクターのディスコ・コンピレーションに収録されているが、それ以前にリリースの経歴がなくおそらく新録音と思われる。構成はオリエンタル・エクスプレスとほぼ同じだが、京琴や尺八が登場しないので雰囲気はだいぶ異なる。コーラス・パートは「♪ Gotta find your way and your car」の部分だけで「♪ Shake your boogie」は歌っていない。BPM は 120 でオリジナルを踏襲。ディスコ感はないが、ギターを主体にしたイージー・リスニング風のライトな演奏が心地よい。

「セクシー・バス・ストップ」をフィーチャーしたアルバム『THE BIRTH OF A DRAGON』の発売は 76 年 6 月で以降、「ピーナッツ (ディスコ・ヴァージョン) / ピーナッツ」(76 年 7 月)「ハッスル・ジェット / ディスコ・ナイト」(76 年 9 月)「カリブの夢 / 真夜中のウォーク」(76 年 12 月)と立て続けに 3 枚がシングル・カットされている。つまり先行の「セクシー・バス・ストップ / バンブー」を含めて 10 曲中、4 枚 = 7 曲がシングル・カットされていることになる。

「セクシー・バス・ストップ」のヒットを受けて歌もの第 2 弾としてリリースされたのが、「ハッスル・ジェット」である。浅野ゆう子とシェリーの競作となり、オリエンタル・エクスプレスも同時にシングル・カットされている。リリース日は浅野ゆう子が 76 年 8 月 25 日でシェリーとオリエンタル・エクスプレスが 2 週間後の 9 月 5 日。両者とも歌詞は同じでこちらも橋本淳のオリジナル作品。シェリーはタイトルが「恋のハッスルジェット」と変更されている。カップリングは「カリブの夢」で両面オリエンタル・エクスプレスのカヴァー。シェリーとともに The Moonlight Disco Band がクレジットされている。

オリエンタル・エクスプレスの「ハッスル・ジェット」のシングル盤の解説の冒頭には「74 年のバンプ、75 年のハッスル、ポイント、そして 76 年のバス・ストップ・ブームに続いてやってきたのがラテン・ハッスルである。」とある。

サルソウル・オーケストラ (The Salsoul Orchestra) のデビュー・アルバムは『シカゴ・バス・ストップ / サルソウル・ハッスル』という邦題で日本でもほぼリアル・タイムの 76 年 1 月に CBS ソニーからオリジナル・アルバムとして発売されている。帯には「ハッスル、ポイントから最新のバス・ストップ迄



れ1枚で完璧」とある。

このアルバムの1曲目に収録された「サルソウル・ハッスル」とファットバック・バンドの「スパニッシュ・ハッスル」がラテン・ハッスルの嚆矢ともいえる楽曲で「ハッスル・ジェット」はまさに日本版「サルソウル・ハッスル」といった趣きで制作されている。同時期にザ・ビーjeezも「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」でラテン・ハッスル＝サルサ+ハッスルを取り入れていて、オリエンタル・エクスプレスの『THE BIRTH OF A DRAGON』と同じ76年6月に発売されている。

オリジナルのオリエンタル・エクスプレス「ハッスル・ジェット」のBPMは124。浅野ゆう子、シェリーもほぼ同じで歌詞も同一のもの。キーはオリエンタル・エクスプレスがB♭、浅野ゆう子はFで、シェリーはEとそれぞれ異なる。メロディーと構成は3者ほぼ同じで基本的に追加や変更はない。

コンガ、ドラムス、エレキ・ベースが絶妙に絡みあうイントロではじまる派手で明るいサウンドは本家のサルソウル・オーケストラに匹敵するハッピー・ディスコで楽器編成は本家同様かなり大がかりなソウル仕様になっている。特に裏打ちのコンガがラテン・グルーヴをリードしている。

ドラムス、エレキ・ベース、クラヴィネット、エレキ・ギター×3、コンガ、ウッド・ブロックのリズム・セクションに大編成のストリングスとブラス・セクション。コーラスはシンガーズ・スリーと思われる女性三声。フルートがところどころで顔を出す。橋本淳の歌詞も「セクシー・バス・ストップ」のヒットを経てディスコ歌謡にはうってつけのライトでポップな仕上がりになっている。

競作となった歌もののアレンジは浅野ゆう子が萩田光雄で、シェリーが船山基紀。二人とも筒美京平の指名であることは明らかである。萩田光雄と船山基紀は70年代中盤以降の筒美京平サウンドの二大アレンジャーとして大きな功績を残すが、ヤマハ出身の先輩、後輩の関係である。

萩田光雄と筒美京平の初仕事は南沙織の「バラのかげり」のカップリング曲「この街にひとり」で74年3月。船山基紀は太田裕美のアルバム『手作りの画集』の中の「ページの手帖」で76年6月。

萩田光雄は74年10月の太田裕美の「雨だれ」で抜擢されて、翌75年には布施明の「シクラメンのかほり」でレコード大賞を受賞。同時にちゃんちゃこの「空飛ぶ鯨」で編曲賞を受賞、76年も梓みちよの「メランコリー」で受賞。2年連続で編曲賞を受賞している。

76年6月つまりこの前月発売の山口百恵「横須賀ストーリー」で一気にヒット・アレンジャーとして駆け上がるタイミングである。船山基紀は前年75年に中島みゆき「アザミ嬢のララバイ」で知られていたが、沢田研二の「さよならをいう気もない」～「勝手にしやがれ」は翌77年なので知名度も実績もまだこれからという時期である。

オリエンタル・エクスプレスの「ハッスル・ジェット」は筒美京平が最先端のディスコ・ミュージック・シーンで欧米のサウンドとリアル・タイムで互角に渡り合った傑作である。60年代にアレンジ革命を起こした筒美京平のソロ・ワークとして大ヒットした「セクシー・バス・ストップ」に続く作品のアレンジをまかされた2人の仕事は興味深い。

浅野ゆう子ヴァージョンの楽器編成はオリエンタル・エクスプレスとほぼ同じ。クラヴィネットとギター・カッティングのプレイがやや異なるが、コードはほぼ同じ。オリエンタル・エクスプレス「ハッスル・ジェット」の特徴でもある1拍3拍のハイ・ハットもしっかり踏襲している。

シェリーのヴァージョンはイントロのコンガとドラム・フィルの絡みから派手



な作りでスラップ気味のベースもディスコ感を創出している。ハイハットはランダムで、パーカッションはウッド・ブロックではなくカステネットのようにも聞こえる。

どちらのヴァージョンもギターに工夫がされていて萩田光雄は比較的ドライな音色でプレイもタイト、船山基紀はオリエンタル・エクスプレスにもみられるスペイシーな雰囲気を出して、それが派手に繋がっている。いずれにしても両ヴァージョンともオリジナルのテイストを壊すことなくしっかりとディスコ歌謡に仕上がっている。

浅野ゆう子ヴァージョンのレコーディング・エンジニアは通常の陣容から考えておそらく内沼映二だろう。シェリーのエンジニアがビクター・スタジオの高田英男であればこちらも師弟競演ということでサウンド面の比較でも興味深い。

歌メロはAの「♪ Do the latin hustle Take me to the sky」はオリエンタル・エクスプレスではコーラス・パートで歌詞も同じ。Bメロの「♪ あなたと二人きりで」はブラス・セクションのパートでサビの「♪ 翼のむくま」はストリングスの演奏していたものとメロディーは同一である。チャートは浅野ゆう子が25位、シェリーが80位、オリエンタル・エクスプレスが46位と3曲ともチャート・インしてヒットを記録した。

同時に浅野ゆう子のポップ・シンガーとしての魅力が「セクシー・バス・ストップ」以上に引き出されている。それ以前の浅野ゆう子のヴォーカルはやや固いイメージがあったが、「ハッスル・ジェット」では本来の声質によるナチュラルでキュートなヴォーカルを聴くことができる。特に「♪ それはあ～ラブサインなお～」と語尾にニュアンスを持たせるあたりが特徴的である。ヴィブラートはシンプルで雰囲気はシルバー・コンベンション「フライ・ロビン・フライ」に近い。

浅野ゆう子は「ハッスル・ジェット」～アルバム『YUKO IN DISCO』でさらに前進して、次作「ムーン・ライト・タクシー」で浅野ゆう子・橋本淳・筒美京平の三部作の完結編へと向かうことになる。

シェリーの音圧のあるヴォーカルもディスコ歌謡の「遊び場」の雰囲気を絶妙に体现。ヴィブラートはナチュラルだが、語尾をストレートに伸ばして歌いきる感じがビクター・アイドルの王道ともいえる。「恋のハッスルジェット」収

録のアルバム『シークレット』は12曲中9曲が筒美京平作品という重要作で「真夏の出来事」の他に「私は忘れない」のフリー風アレンジ・ヴァージョンも収録されている。

「ハッスル・ジェット」は後に欧陽菲菲が「夢舞」というタイトルで台湾語でカバーしていて、こちらのアレンジ〜トラックはシェリーのヴァージョンに近い。ヴォーカルのグルーブは迫力満点で聴き応え充分である。浅野ゆう子がティナ・チャールズでシェリーがペニー・マックレーンなら欧陽菲菲はドナ・サマーといったところだろうか。後には鈴木蘭々も全曲筒美京平作品の96年のデビュー・アルバム『Bottomless Witch』で「渚のうわさ」とともにカバーしている。

シングル第2弾となったのが「ピーナッツ(ディスコ・バージョン)/ピーナッツ」でアルバムの翌月の76年7月にシングル・カットされている。A面のディスコ・バージョンは「.ピーナッツ〜」という歌詞のコーラスが無く、スキットののみとなっている。「ピーナッツ」もラテン・ハッスルで、サルソウル・オーケストラでいえば「シカゴ・バス・ストップ」あたりの雰囲気に近い。BPMは120で「セクシー・バス・ストップ」とほぼ同じ。ストリングスとムーングと思われるシンセの掛け合いにフルートとコーラスが加わる。主旋律とベース・ラインが明確で踊りやすさも含めてポップなディスコ・ナンバーとしてセカンド・シングルに抜擢されたのだろう。

「ピーナッツ」はビクター移籍後の山根宮子と佐伯芳江の女性ツイーン・ヴォーカル時代のジャッキー吉川とブルー・コメッツが橋本淳の作詞でカバーしている他、「ソウルこれっきりですか」(76年12月)が大ヒットしたマイナー・チューニング・バンドがカップリング曲でマリリン・モンロー・ハズバンド名義で取り上げている。

他に『THE BIRTH OF A DRAGON』と『HIT MACHINE/筒美京平の世界』で重複している楽曲としては「リトル・モンスター」が注目される。『THE BIRTH OF A DRAGON』に収録されたオリエンタル・エクスプレスのヴァージョンはMaj7を多用したコード・ワークもフュージョン寄り、メイン楽器がフェンダー・ローズ。ソロ・プレイの雰囲気もこの時期のクルセイダーズを彷彿とさせる。オリエンタル・エクスプレスの中では最もフュージョン寄りといえるだろう。

585BANDのヴァージョンは逆にディスコ寄りです。プラス・セクションとウーリッツァー(エレキ・ピアノ)のコンビネーションにリズム・カッティングのWOWギター2本がアドリブ気味に掛け合う。BPMは『THE BIRTH OF A DRAGON』が118で585BANDは88とかなりゆったりとしたミドルスローのディスコ仕様。音響的にはかなり実験的でイントロから深町純のムーングがコードを無視して低域に潜んでいる。ブリッジ部分のソロ・パートでギターと絡むミニ・ムーングの響きがこれぞアナログ・シンセといった趣きで初期テクノ感を創出。

二つのアルバムに同時に収録されたのは「セクシー・バス・ストップ」「バンブー」「カリブの夢」「リトル・モンスター」の4曲だが、「リトル・モンスター」が最も異色な楽曲で同一曲の聴き比べの醍醐味が味わえる。エンディングのトロンボーンのソロも意外かつ納得のいく起用である。

「真夜中のウォーク」はブギー・ウォークの先駆けともいべき楽曲で、ブラック・レベルの「ウォーキン」、ファンキー・ビューローの「ブギー・ウォーク」といった和製ディスコに先んじた楽曲。スラップ・ベースとギター・カッティングを駆使したファンキー・ディスコでスキットも入らない完全なインスト曲。「ディスコ・ナイト」はアルバム中、唯一のスロー・ナンバーで作詞のクレジット



トはないが、英語詞のついたヴォーカル・ナンバー。スタイリッシュなビリー・ポールといったスロー・テンポのソウル・ミュージックとはやや雰囲気も異なる。ビートやサウンド、コード感より歌メロが前面に出ているのは、ホール&オーツやネッド・ドヒニーといった初期のAORも念頭にあってのようだ。

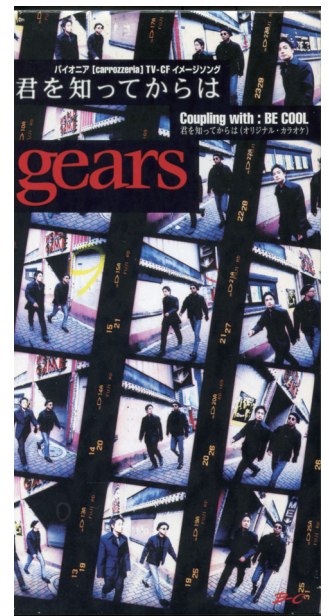
「ドクター・ドラゴンのテーマ」はオリエンタル・ムード満載の楽曲で「吼えろドラゴン」MEETS「シャフト」を筒美京平＝ジャック・ダイヤモンドが味付けしたディスコ・ナンバー。京琴、尺八、三味線、銅鑼といった和楽器が勢揃いしたまさにアルバムのタイトル・ナンバーに相応しい歯切れのよい作品である。

「セクシー・バス・ストップ」のカップリング曲「バンブー」は冒頭から京琴をフィーチャーしてオリエンタル・ムードを前面に出した楽曲。本編はストリングスのメロディー・ラインがメインでリズムはシャッフル。BPM100のミドル・アップテンポのディスコ・サウンドでバンザイ「チャイニーズ・カンフー」やシルバー・コンベンションの「Get Up And Boogie」と同様にダンスはバス・ストップかスロー・バンブーといった曲調。

「バンブー」の姉妹曲ともいえる注目作が麻丘めぐみの「夏八景」である。

発売は浅野ゆう子「セクシー・バス・ストップ」の2ヶ月後で『THE BIRTH OF A DRAGON』と同じ76年6月。「バンブー」とビートの骨格はほぼ同じで「セクシー・バス・ストップ」の影に隠れて目立たないが、全編にクラヴィネットとWOWギターの鳴り響くビクターのディスコ歌謡の先駆的作品である。ビドゥーのプロデュースのもとで「I Love To Love」「恋のレディ・ダンス」といったヒットを放つティナ・チャールズとも相通ずるポップス系ディスコ・サウンドである。

作詞は阿久悠で初期の麻丘めぐみ、岩崎宏美を手がけたビクターの笹井一臣ディ



レクターが再び担当になったことから制作された作品である。ピクチャー・アイドルのオリジネーターとして、また南沙織とともに筒美京平の 70 年代ガール・ポップの礎を築いた麻丘めぐみの後期の傑作である。B 面の「黄昏のテラス」もポール・モーリアの「オリーブの首飾り」を意識した哀愁ディスコ歌謡。2 曲をフィーチャーしたアルバムで翌月の 76 年 7 月に発売された『プライベート・ファッション』に収録された「だまされたいの」も本格的なディスコ歌謡でこちらはマイナー・キーのゆるめのビートでメロディーも「にがい涙」の雰囲気に近い。

他にドクター・ドラゴン名義で「スーパーマン/サンバ・クラブ」が 79 年にリリースされているが、オリエンタル・エクスプレスのクレジットは無くサウンドも異なるので本稿では取り上げていない。ジャック・ダイヤモンド名義としては 94 年 11 月リリースの gear の第 2 弾シングルとして提供した「君を知ってから」（作詞 gesrs）に作風はディスコ歌謡とは異なるが JACK DIAMOND 名義が使用されている。

『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』の発売は『THE BIRTH OF A DRAGON』の 1 ヶ月後の 76 年 7 月 5 日。この時期の筒美京平の音楽的技法の中心軸のひとつが広義のフリー・ソウルだと考えられる。バート・バカラック～A&M 同様に「心地よさ」と「新しさ」に「ヒット性」がほどよくブレンドされていて、かつ音楽的にはハイ・レベルにある。

フリー・ソウルはケニー・ギャンブル & レオン・ハフという二人のソング・ライター兼プロデューサーによるレコード会社フィラデルフィア・インターナショナル発の音楽を示すが、直接、間接を問わず影響下にあるプロデューサー、ミュージシャンは多岐にわたり、トム・ベル、ボビー・マーチンはもちろんバリー・ホワイ特、ヴァン・マッコイもその範疇にある。

フリー・ソウルを中心軸にしてコモドアーズやサルソウル・オーケストラをブレンドしたのがオリエンタル・エクスプレスで、MFSB にヴァン・マッコイ、ポール・モーリアをリファレンスしたのが、585BAND といったところだろう。同時期に英ボリドールの辣腕 A&R でザ・タイガースの「スマイル・フォー・ミー」をコーディネートしたことで知られるビドゥーの率いるビドゥー・オーケスト



ラが登場したこともひとつの要因だろう。

『THE BIRTH OF A DRAGON』は音楽的な方向性はヴァン・マッコイや MFSB の別名義ともいうべき分身のサルソウル・オーケストラに代表される「黒人ソウル発信」であることはもちろんだが、なんといっても中心にあるのは、世界中で大ブームの「ディスコ・ミュージック」そのものである。一方の『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』は比べると、MFSB そのものに近く、聴き応えはフュージョン寄りの要素もあり、リスニング仕様の落ち着いたあるサウンドも特徴といえるだろう。

レコーディング時期は『THE BIRTH OF A DRAGON』のライナー・ノートには「半年以上の日時がついやされた」と記載がある。「セクシー・バス・ストップ」の制作が 75 年 11 月からでアルバムの発売が 76 年 6 月なので遅くとも 4 月末から 5 月上旬には完成していたと考えられる。『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』はレコーディング日時が 75 年 12 月 18 日から 76 年 3 月 31 日と正確に記載されているので並行してレコーディングが行われていたと思われる。

競作となったのは「セクシー・バス・ストップ」「カリブの夢」「ハンブー」「リトル・モンスター」の 4 曲。「セクシー・バス・ストップ」を聴き比べると二つのアルバムの特色や相違点がみえてくる。

オリジナルのオリエンタル・エクスプレスの BPM は 120 で比べて 585BAND は BPM が 114 とかなり遅くディスコ感はいだいぶ薄れている。楽器編成はオリエンタル・エクスプレスとほぼ同じだが、コンガが無くパーカッションはビブラ・スラップが配置されている。アレンジはベース・ラインががらつと変更されているので聴いた印象はやや異なる。1B に登場するコーラスは「♪ Gotta find your way and your car Shake your boogie」でオリエンタル・エクスプレスと同じ。

『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』に付属したライナー・ノートはレコーディング・メモ的な要素もある資料的な価値の高いもので興味深い。そこに記載された楽曲解説には「風変わりなバス・ストップです。日本を代表する尺八の音色が奇妙な味を出しているのです。」と記載されている。

「セクシー・バス・ストップ」のシングルの発売が 3 月なのですでに 4 ヶ月



経過して、すでにヒット・チャートにランク・インしているがまったく触れていないのは、おそらく並行してレコーディングが進んでいたことから、ライナー・ノートの執筆が「セクシー・パス・ストップ」のヒット以前だったのだろう。

象徴的なのはクラヴィネットの使い方である。クラヴィネットはスティーマー・ワンダーの 72 年のアルバム『TALKIN GBOOK』からのシングル・ヒット「迷信」で一躍脚光を浴びたホーナー社製の鍵盤楽器で、エレキ・ギターのような振動音が発音されるのが特徴である。続いてザ・コモドアーズのデビュー・アルバム『マシン・ガン』は表題曲を筆頭に「ザ・バンブ」といったクラヴィネットによるディスコ・ファンクのオン・パレードである。筒美京平では郷ひろみ「君は特別」(74 年 6 月)のイントロのビリビリしたサウンドが思い出される。

刺激の多いいわゆる「下世話」なサウンドはまたたくまにソウル・ファンクの主要楽器としてディスコ音楽の定番楽器となる。クラヴィネットの音色を従来の鍵盤楽器の流れから外れた異色とみなすか、斬新でホットなサウンドと捉えるかによって構築される音楽の方向性は大きく異なる。

解析不能なコードの早弾きピアノの連打と意味不明な言葉を早口で絶叫するリトル・リチャードやフェンダーのストラト・キャスターを逆手に持って歯で弾くジミ・ヘンドリックスの歪んだギターを邪道とみなすか、ヒップでかついいと感じるか、という感性の相違である。

オリエンタル・エクスプレスではザ・コモドアーズ「ザ・バンブ」のディスコ・ファンク感が上手く取り入れられていて、585BAND では歪みを押さえたソフィスティケートされた音色が採用されている。MFSB のサウンドにおいて鍵盤楽器の中心にあるのはフェンダー・ローズのゆったりとしたトレモロ感の響きが醸成する快感で、クラヴィネットは脇役の一人という解釈である。

『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』と『THE BIRTH OF A DRAGON』は筒美京平の併せ持つ「心地よさ」と「刺激」の両面が見事に同時に作品化された稀有なケースで『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』はその後開花するシティ・ポップスの先駆けであり、完成度は高く理想ともいえるサウンドがすでに構築されている。

『THE BIRTH OF A DRAGON』は 78 年の中原理恵「東京ららばい」「ディスコ・レディー」～ 79 年に 2 度目のレコード大賞を受賞するジュディ・オング「魅せられて」に見られるディスコ・フレイバー溢れる筒美京平ポップスの源流となる。これらの音楽的背景を実感しつつ二つのアルバムを聴き比べると筒美京平の才能や感性がよりダイレクトに伝わってくる。

また、別の観点で捉えると、これは同時に「歌と踊り」というストリートから生まれる大衆芸能との関係性に纏わるレコード会社の社風の違いでもある。ビクターは中山晋平の「東京行進曲」や新民謡からはじまり、橋幸夫の「あの娘と僕（スイム・スイム・スイム）」を経て、ピンク・レディー「渚のシンデバッド」、荻野目洋子「ダンシング・ヒーロー」に至るまで「歌と踊り」のレコード会社である。

図にあるのは、オリエンタル・エクスプレスの「セクシー・パス・ストップ」「ハッスル・ジェット」のシングル盤の裏ジャケットに掲載されたダンス・ステップの図解である。イラストは表紙も含めて日本のディスコ・レコードのカヴァー・ペイントの第一人者の江守藹 (EMORI AI)。同時に掲載したのはビクター純邦楽のスター、市丸の端唄全集 (38)「京の四季」と民謡の大御所でビクター専属の鈴木正夫「木曽節 / 串本節」のジャケットと内面である。どちらも「両面振付」と記載があるように、踊りの図解は必然であり、レコード販売の前提な

のである。これは例外ではなく民謡、端唄等の純邦楽のほとんどのレコードに振り付けの図解があり、多い場合は 8 ページに及ぶ踊りが掲載されている。

東芝レコードは親会社が大手電機メーカー東芝で戦前は日本ビクターがその傘下にあった歴史もあり、東芝の中興の祖ともいべき石坂泰三が親族でもある石坂範一郎をビクター・レコードから迎えて創設。当時は EMI 系列だった英国グラモフォンとフランスのパテ・マルコーニとのレーベル契約からスタートしていることもあり、クラシック音楽やエンジェル・レーベルのシャンソンといった音楽芸術を中心にした洋楽の会社といった特色が感じられる。ビクターの大衆芸能と音楽芸術の東芝といった印象である。ザ・ビートルズがオデオン (パーロフォン) からリリースされた時の日本側で生じた違和感もそのような文脈からは理解できる逸話である。

『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』すなわち KYOHEI TSUTSUMI & HIS 585BAND の参加ミュージシャンの詳細は下記になる。

筒美京平のレコーディング・セッションにおけるこの時期のベスト・メンバーともいえる腕利きミュージシャンが全員揃っている。特にリズム・セクションは不動のメンバーで、日本の歌謡曲を根底から支えた優れた演奏家たちである。オリエンタル・エクスプレスはミュージシャン・クレジットが公式に存在しないのが残念だが、関係者の多くの証言からかなりの重複があることは間違いがない。

リズム・セクション

田中清司 (ドラムス)

武部秀明 (エレキ・ベース)

羽田健太郎 (ピアノ、フェンダー・ローズ、ウーリッツァー、ソリーナ、クラヴィネット)

深町純 (ミニ・ムーグ、ARP オデッセイ、ソリーナ、トーキング・ボックス)

水谷公生 (エレキ・ギター)

松木恒秀 (エレキ・ギター)

直居隆雄 (エレキ・ギター)

ラリー須永 (ラテン・パーカッション)

斉藤ノブ (ラテン・パーカッション)

金山功 (グロッケン)

ホーン・セクション

トランペット 羽鳥幸二、中澤健次

トロンボーン新井英治、平内保夫、三田治美、岡田澄雄

サクソス村岡健、岡崎広志、砂原俊三

フルート衛藤幸雄

フレンチ・ホルン沖田晏宏、山本真

オーボエ坂宏之

和楽器

横笛旭孝

尺八 村岡健

琴山内喜美子

ストリングス

友田啓明グループ

コーラス シンガーズ・スリー

伊集佳代子

尾形道子

槇みちる



プロデュースは草野浩二、エンジニアは行方洋一。

Directed, Music and Arrangement by KYOHEITSUTSUMI とクレジットされている。当時の東芝の最高音質である PRO USE シリーズの 1 枚としてリリースされている。

『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』からシングル・カットされたのが「カリビアン・ドリーム／ヒット・マシーン」である。「カリビアン・ドリーム」＝「カリブの夢」は 585BAND、オリエンタル・エクスプレス、シェリー、デューク・エイセス、ペドロ & カプリシャスの 5 者競作。当初は「オレンジの首飾り」という仮タイトルだったという。

シェリーとデューク・エイセス、ペドロ & カプリシャスは歌入りで作詞はどれも山川啓介だが、歌詞は 3 者でまったく異なる。デューク・エイセスはシングル A 面でカップリングはつなき & みどりの「愛の挽歌」のカヴァー。シェリーは「恋のハッスル・ジェット」の B 面に収録されていて編曲は船山基紀。ペドロ & カプリシャスは編曲は萩田光雄。発売日はシェリー、デューク・エイセス、ペドロ & カプリシャスの順だが、歌詞がすべて異なるのでカヴァーというよりはオリジナルという側面が強い。

585BAND もオリエンタル・エクスプレスも BPM は 132 ～ 133 でハッスルやバス・ストップで踊るにはかなりの高速である。キーはどちらも Dm。

「カリビアン・ドリーム」は『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』のリード曲としてアルバム の 1 曲目に収録。シングル・カットされたメイン楽曲である。シングル盤の表紙には「哀愁のメロディーと衝撃のサウンドをあなたの胸にハッピー・ディスコ・サウンドの決定盤」とある。

フレンチ・ホルンの響きで幕開けするとすぐにストリングスが「ハッスル」のリフで絡んで短いイントロを奏でて盛り上がりを見せると、主旋律はエレキ・チェンバロが登場。ライナー・ノートによると右手でソリーナ、左手でエレキ・チェンバロをユニゾンで同時に演奏しているようで、この時点でポール・モーリア MEETS ヴァン・マッコイ感全開、というより煌びやかな筒美京平ワールドに引きこまれてしまう。シングル盤には珍しく筒美京平自身によるテキストが収録されていて、「ヨーロッパ・メロディーを採り入れた "カリブの夢" は最も日本人のテイストに合ったディスコサウンドといえるでしょう」と記述されている。

4 コーラス構成でイントロの後は A→B→A→B で 2 番 B のあとに 4 小節のブリッジがあり 3A→3B→4A→4B で別メロディーのエンディングを迎える。比較的シンプルな構成だが、B が 9 小節なのが特徴で B の後半 2 小節がキメ(リズム・ブレイク)風のフックになっている。エレキ・チェンバロの後を受けて B は流麗なストリングスがメロディーを奏で、間奏明けの後半になると A パートをストリングスが担当。B はフルートとストリングスの掛け合いになる。インスト曲として作曲されているだけにメロディーの起伏が激しく、テンション・コー



ギター・カッティングとプラスがリズムを刻んでいるパートが延々と続くため、これもディスコ仕様の一要素である。

シェリー、デューク・エイセス、ペドロ & カプリシャスは同一曲で作詞家も同じだが、歌詞はまったく異なる。シェリーの歌詞は「♪ さよなら 二人の夏」で始まるが、デューク・エイセスは「♪ お願い 眠らないで」、ペドロ & カプリシャスは「♪ 心が寒くなると」という歌詞で完全に別物である。BPM はシェリーが 134 でペドロ & カプリシャスが 130 でオリジナルとほぼ同じ。デューク・エイセスは 128 でやや遅い。キーはシェリーが C#m でデューク・エイセスは Bm、ペドロ & カプリシャスは Bbm。

最大の違いは歌詞の内容だけでなくシェリーは B パートに歌詞がない点で、もとが器楽曲なのでレンジが広すぎてトップに届かないことが理由だろう。エンディング部分には歌があつて「♪ ひとりの旅が 今はじまる」という歌詞で終わる。

ペドロ & カプリシャスはリード・ヴォーカルが高橋真梨子時代。下がファ # で上がファ # の 2 オクターブという広いレンジで起伏の激しいメロディーだが歌唱の迫力は素晴らしく完璧ともいえる出来栄。AB×2+ エンディングの 2 ハーフで演奏時間も 3 分 25 秒でしっかりと歌モノに仕上がっている。B メロの歌詞は「♪ あなたは 笑うかしら」でエンディングの「♪ あなたがドアを叩く日まで～」を実声で歌いきるのはさすがである。筒美京平が 92 年に高橋真梨子に提供した「とまどい小夜曲 / それでもあなたがいてだけで」も全曲研究において必聴である。

デュークは 4 パートいるので声域に問題はなく B メロも歌唱している。エンディング部分の歌詞は「♪ もう一度 あたためて私を～」でファルセットになる。担当ディレクターが草野浩二だったことからカヴァーしたと考えられるが、本稿で取り上げる作品の中でもかなり異色の出来映えである。

デューク・エイセスは永六輔・いずみたくコンビによる「にほんのうた」シリーズで知られるコーラス・グループでダークダックス、ボニージャックスと並んで 1950 年代から長く活動した男性 4 人組である。ダークダックスとボニージャックスが早慶のグリー・クラブ出身でロシア民謡などを主に取り上げていたのに比べてデューク・エイセスはポップス寄りのグループだったといえるだろう。根本的にメインはハーモニーであってディスコ・ミュージックは意識し



ていないだろう。ディスコ・フュージョン感のテイストとはかなり異なる仕上がりで、ビートの体現や解釈によって歌の印象がまったく変わる典型ともいえる。

カップリング曲は「ヒット・マシーン」。『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』は全 10 曲でうち 3 曲がカバーで 7 曲が筒美京平作品。4 曲が『THE BIRTH OF A DRAGON』と競作で『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』のみに収録されているのは「ヒット・マシーン」「A KILLER SMILE」「MY TINY ANGEL」の 3 曲である。「ヒット・マシーン」「A KILLER SMILE」の 2 曲に歌詞があり、今野雄二が作詞を担当している。

「ヒット・マシーン」はフリー・ソウルの本家 MFSB に迫るソウル・インスト曲で、「K-Jee」「Love Is The Message」といったサウンドを彷彿させる。特徴的なのは間奏部分のギター・ソロで、リー・リトナーやパット・メセニーらの新世代ギタリストによって台頭しつつあったフュージョン・ギターのテイストがいち早く取り入れられている。

「A KILLER SMILE」も MFSB を意識したサウンドで、こちらは「Sexy」あたりのファンク感が見事に漂う。WOW ギターの 16 ビートのカッティングをバックにシンガーズ・スリーがスリー・ディグリーズばりのグルーヴィーなコーラスを聴かせる。弓弾きとピチカート奏法を織り交ぜたストリングスのノリも素晴らしいフルートとの絡みも絶妙である。

「MY TINY ANGEL」は『南から来た十字軍』(76年)あたりのザ・クルセイ
ダーズ等のフュージョンのスムーズな雰囲気を目指したかのようにも聴こえる
が、それより筒美京平オリジナル感の方が強い。これぞ日本のオリジナル音
楽シティ・ポップスの源流とでもいうべき心地のよいライトな曲調である。

『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』と『THE BIRTH OF A DRAGON』で構築されたサウンドは、ソウル、ディスコ、フュージョン、AORといったその後のシティ・ポップスの基礎となる新たな音楽の要素が鑲められている。同時に筒美京平の新時代への展望を示す指標ともいえるべき重要な作品である。

これらの進化型にあると考えられるのが浅野ゆう子「ムーンライト・タクシー／リンゴの心」である。作詞は2曲とも橋本淳。編曲は筒美京平・萩田光雄の連名。サディスティックスの名前が見られる資料もあるが、オリジナルのシ



ングル盤のクレジットには見あたらない。

「ムーンライト・タクシー」は浅野ゆう子にとっては「セクシー・バス・ストップ」「ハッスル・ジェット」に続く橋本淳・筒美京平コンビ作品でディスコ歌謡三部作の3作目になる。

「ムーンライト・タクシー」は前2作がアルバムのインストゥルメンタルに後から歌詞を強引に載せたのに比べて、こちらは書き下ろしのオリジナル曲で、4人組男性グループC.C.O(獅子王)との競作となった。発売は浅野ゆう子が早くこちらがオリジナルとなる。後に欧陽菲菲が「ハッスル・ジェット」同様に「嘿嘿!計程車」というタイトルで台湾語でカヴァーしている。

その歌手に最も似合うオーダー・メイドの作品の制作を身上とする「職業作家」筒美京平のまさに面目躍如ともいえるべき作品で、浅野ゆう子のその後のトレンドィ女優としての活躍を見越したかのような、まさに時代の先端をいくサウンドが全編で展開されている。

16ビートのソリッドなギター・カッティングとピアノとクラヴィネットの競演



ではじまるイントロが冒頭からディスコ・フュージョン感 & お洒落度全開で「ニュー・サウンド到来」を期待させる。歌部分はキーが Fm でメイン・コードは Fm11 だが、イントロは D ♭ M7(onF)→B ♭ m7(onF)→B ♭ m7(onE ♭)→B ♭ m7(onG)→B ♭ m7(onE ♭)→A ♭ M7 という進行でテンションとオン・コードの連打で、ベース・ラインとクラヴィネットの左手のプレイが複雑な響きを演出している。バス・ドラムとエレキ・ベースの同期も完璧で、歌へ繋ぐチョッパー・ベースのフィルはまさにブラコンそのものである。

76 年はブラザーズ・ジョンソンがクインシー・ジョーンズのプロデュースにより A&M からアルバム『Look Out for #1』で華々しく登場。ルイス・ジョンソンのスラップ(チョッパー)奏法によるベースは世界中のベーシストに衝撃を与える革命的なプレイで、マイケル・ジャクソン『スリラー』の登場を待つまでもなく、日本でもサディスティックスの後藤次利や、その後続々と登場する和フュージョンに多大な影響を与えた作品である。「ムーンライト・タクシー」は『Look Out for #1』の中の 1 曲である「Get The Funk Out Ma' Face」から何らかのヒントを得たと思われる。

注目すべきは橋本淳のリリック・ワークである。曲先行と考えるのが自然だが、冒頭の「♪ Hey Hey Taxi」の冒頭の部分を読み解くとメロディーは「♪ ドドシトラ ♭」で音符は 4 つでかつ 3 拍半である。そこに「♪ ヘイヘイタクシー」と 8 音節の歌詞をつけていて、それが歌い出しになっている。この 1 小節をもう少し詳しくみると「♪ ドドシトラ ♭ ミ ♭」で音符は 5 つで最後のミ ♭の箇所が次の「♪ どうして」の頭の「ど」の部分にあたる。「ど」の部分は 8 符音符でつまり歌詞とヴォーカルで微妙にアウフタクト(喰イ)感を創出している。

後のシティ・ポップスの成立の重要な要因のひとつが歌詞の変革であることは周知だが、「♪ Hey Hey Taxi」はその先駆けともいべき画期的なフレーズである。



Hey Hey タクシー ど う して - HeyHey タクシー い - そ ぐ の - HeyHey タクシー そ

続く「♪ ふったッリ～のせ～きは～」は筒美京平のメロディーと橋本淳のリリックの攻防が見事で、特に筒美京平の「♪ D ♭ →D ♭ 6→D ♭ maj7→D ♭ 6」と一音符ずつ微細なコード・チェンジを重ねていく演出が見事である。

最も耳を引かれるのは B メロ終わりの「♪ 話し相手してよ～」の「♪ してよ～」の箇所である。2 番では「♪ あなた次第なのよ～」の「♪ なのよ～」の箇所になる。メロディーは「♪ ラドファ」で「♪ よ～＝ファ」がこの曲トップ(最高音)で、最低音がドなのでレンジは 1 オクターブ半とやや広い。浅野ゆう子はオクターブ・ユニゾンの自ハモで対応。一聴すると低い方のパートの「♪ してよ～」がメインで聴こえるが、あくまでも上のパートが主メロで丁寧に聴くとわかるが、レコーディング上はしっかり歌えていてダブル・パートになっている。おそらくミックスの段階で低い方のパートをメインで聴こえるように仕上げているのだろうが、逆にこの部分がフックになっていて不思議な効果を上げている。

構成は ABC の 3 パートで「♪ ムーンライト Night ～ You and me」の部分が C メロ＝サビ。3 分 35 秒とコンパクトなシングル曲仕様になっているが、時代の先端を突き進む筒美京平の才能と魅力が全開の傑作である。体現する

浅野ゆう子のヴォーカルも素晴らしい。

C.C.O によるカバーは編曲が C.C.O・船山基紀の連名でディレクターは筒美京平の実弟の渡辺忠孝。キーが Gm で浅野ゆう子より一音高く、全編がファルセット・ヴォーカル。ギター・カッティングとアナログ・シンセの派手な音作りによるディスコ・ファンクに仕上がっている。歌詞が一部変更されていて浅野ゆう子の「♪ 二人の席は ロマンс・シート」が「♪ ファンキー・シート」に「♪ ムーンライト Night」が「♪ グッド・ナイト・ナイト」となっていて 2 番にも変更がある。L.A. SOULDrivers はフルートとアナログ・シンセでこちらはフュージョン風味のディスコ・インストといった仕様。

カップリングの「リンゴの心」は 585BAND のオリジナル曲、といってもまったく異和感を感じさせないフュージョン寄りの MFSB といったテイストの楽曲。BPM128 で聴感上はそれほど早く感じられないが、コード・チェンジの激しい楽曲でほとんどがオン・コードとテンションで演奏難易度は高い。構成はイントロが 2 種あり 14 小節で歌部分が A8×2 回で B が 10 小節。楽器構成上の特徴はシンセのストリングス・アンサンブルでおそらくソリーナが使用されているのだろう。「リンゴの心」というタイトルと曲全体の雰囲気とのミス・マッチが意図的なのか偶発的なのか。

16 符音符を多様したメロディーはインスト曲にもふさわしい透明感と広がりのある心地のよい曲調である。歌詞も曲調に合わせたあっさりしたもので、「♪ 愛と同じ悲しみを～私は人形ね」がまさに橋本淳の世界である。コード・ワークもフュージョン感あふれるもので、B 終わりの「♪ 私は人形ね～」の「♪ ね～」の部分の音階が Gm7(♭5)→A ♭ maj7(13)(onG) というフュージョン感全開のテンション・コード自体から導かれている点が斬新な試みである。

シティ・ポップス前夜の 1976 年 12 月にリリースされたシングルだが、2 曲ともにこれぞ筒美京平シティ・ポップスというべき斬新な音楽的試みに満ちた画期的な作品である。

明けて 1977 年。この年は前年にはじまるディスコ、フュージョン、ブラコン、AOR といった洋楽の新ジャンルがヒット・チャートに次々に登場。すぐにハイブリッドな増殖を始め、それらが様々な音楽に相互に影響を与えてシティ・ポップスという日本独自の音楽が誕生することになる。

2021 年 5 月 3 日

筒美京平セクシー・バスストップ関連作品

	年月日	アーティスト	曲名	品番	作詞	編曲	アルバム	メーカー	CHART
1	1976/ 3/ 5	オリエンタル・エクスプレス	セクシー・バス・ストップ	JET-2369	インストゥルメンタル	Jack Diamond		ビクター	25
2			バンブー						
3	1976/ 4/25	浅野ゆう子	セクシー・バス・ストップ	RVS-1006	橋本淳	高田弘		RCAビクター	12
4	1976/ 6/ 1	オリエンタル・エクスプレス	真夜中のウォーク	VIP-6329	インストゥルメンタル	Jack Diamond	THE BIRTH OF A DRAGON	ビクター	25
5			ハッスル・ジェット						
6			リトル・モンスター						
7			カリブの夢						
8			ドクター・ドラゴンのテーマ						
9			ディスコ・ナイト						
10	1976/ 6/25	麻丘めぐみ	夏八景	SV-6010	阿久悠	筒美京平		ビクター	64
11			黄昏のテラス			筒美京平／萩田光雄			
12		ローレン中野	セクシー・バス・ストップ	SKA-163	橋本淳	あかのたちお	ゆうわく	キング	
13	1976/ 7/ 5	オリエンタル・エクスプレス	ピーナッツ(ディスコ・バージョン)	VIP-2430	インストゥルメンタル	Jack Diamond		ビクター	90
14			ピーナッツ						
15		KYOHEI TSUTSUMI & HIS 585 BAND	カリブの夢	LF-91016	インストゥルメンタル	筒美京平	HIT MACHINE/筒美京平の世界	東芝	
16			ヒット・マシーン		今野雄二	筒美京平			
17			リトル・モンスター		インストゥルメンタル	筒美京平			
18			A KILLER SMILE		今野雄二	筒美京平			
19			バンブー						
20		麻丘めぐみ	セクシー・バス・ストップ		インストゥルメンタル	筒美京平		ビクター	
21			MY TINY ANGEL						
22		浅野ゆう子	だまされたいの	SJX-10139	阿久悠	筒美京平／萩田光雄	ブライバシー・ファッション	RCAビクター	25
23	1976/ 8/25	浅野ゆう子	ハッスル・ジェット	RVS-1033	橋本淳	萩田光雄		RCAビクター	46
24	1976/ 9/ 1	オリエンタル・エクスプレス	ハッスル・ジェット	VIP-2451	インストゥルメンタル	Jack Diamond		ビクター	80
25			ディスコ・ナイト						
26	1976/ 9/ 5	シェリー	恋のハッスルジェット	SV-6101	橋本淳	船山基紀		ビクター	
27			カリブの夢		山川啓介	船山基紀			
28	1976/10/ 5	ジャッキー吉川とブルーコメッツ	ピーナッツ	SV-6111	橋本淳	小田啓義		ビクター	
29	1976/12/ 1	KYOHEI TSUTSUMI & HIS 585 BAND	カリビアン・ドリーム	ETP-10152	インストゥルメンタル	筒美京平		東芝	54
30			ヒット・マシーン		今野雄二	筒美京平			
31	1976/12/ 5	浅野ゆう子	ムーンライト・タクシー	RVS-1041	橋本淳	筒美京平／萩田光雄		RCAビクター	
32			リンゴの心						
33	1977/ 1/25	オリエンタル・エクスプレス	カリブの夢	VIP-2497	インストゥルメンタル	Jack Diamond		ビクター	
34			真夜中のウォーク						
35		L. A. SOUL Drivers	ムーンライト・タクシー	RVS-1049	インストゥルメンタル			RCAビクター	
36			セクシー・バス・ストップ		インストゥルメンタル			ビクター	
37	1977/ 2/ 1	C. C. O	ムーンライト・タクシー	DR-6071	橋本淳	C. C. O／船山基紀		ポリドール	
38	1977/ 7/ 5	デューク・エイセス	カリブの夢	TP-10255	山川啓介	筒美京平		東芝	
39	1978/ 2/28	ペドロ&カブリシャス	カリブの夢	RVS-1124	山川啓介	萩田光雄		RCAビクター	
40	1979/ 3/ 5	ドクター・ドラゴン	スーパーマン	VIH-1038	P. Shuey	筒美京平		ビクター	46
41			サンバ・クラブ		V. Galati, Jr.	筒美京平			